

11/5
2007年 第959号
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
大発行人 志岐幸町1-2-33
大阪浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円 月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

秋の大運動

歯科医療の窮状打開

10・28決起集会、10・18国会要請など

全国から
569人

保険のきく範囲を広げ 患者負担の軽減を

決起集会

「歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士などが一堂に集まり、歯科医療の窮状を打開しよう」と。「歯は命 歯科医療危機突破10・28決起集会」が10月28日、東京・砂防会館で開かれ、歯科医師、コ・デンタルスタッフら569人が参加した。集会は、歯科保険のきく範囲を広げ、患者の窓口負担を軽減し、歯科診療報酬を引き上げようと、保団連・民医連・「保険でよい歯科医療を」全国連絡会ら呼びかけ開かれた。協会からは伊津進弘理事長はじめ、副理事長・理事・会員の先生ほか、歯科技工士・歯科衛生士・家族・事務局ら33人が参加した。会場には大阪の2320筆を含めた19万1810筆の署名が積み上げられた。

集会は、①歯科保険のきく範囲を広げよう②患者の窓口負担を軽減しよう③より良く噛める入れ歯が保険でできるようにしよう④歯周病の治療・管理が保険で十分できるようにしよう⑤新しい歯科治療技術を速やかに保険適用しよう⑥保険で良い治療ができるよう歯科診療報酬を引き上げよう――の決議を採択した。

この6つの要求スローガンの実現を目指して、署名や自治体の意見書採択運動など「保険でよい歯科医療の実現を求め」運動を、多くの歯科医療従事者をはじめ医療関係者や国民と手を携えて進めていくと行動提起がされ、参加者の拍手で確認した。

リレートークでは小澤力副理事長が、「保険でよい歯科医療の実現を求め」意見書採択運動について、これまでに吹田市・羽曳野市・高槻市・田尻町・和泉市の4市1町議会で採択されたことなどを報告した。歯科衛生士や患者から、貧困層の児童が歯科治療にかかれないという実態や、高齢者の負担が重くなり、治療の中断が増えていることなどが報告された。



自治体意見書採択運動の報告をする小澤力副理事長＝10月28日、東京・砂防会館



歯科医療の改善について訴える戸井氏＝10月28日、有楽町マリオン前

ていることなどが報告された。

保団連歯科代表の宇佐美宏氏が基調報告し、診療報酬のマイナスイラスト改定などで歯科医師の医療経営が逼迫した状況にあること、それにもない歯科技工士や歯科衛生士の労働条件も非常に厳しい状況にあることを訴えた。

集会には69人の国会議員から賛同が寄せられ、当日は大久保潔重議員(参・民主)、川田龍平議員(参・無所属)、小池晃議員(参・共産)が挨拶した。

有楽町マリオン前で街頭宣伝

保団連・協会は今後の集会に先立ち、有楽町マ

リオン前で街頭宣伝を行った。全国から集まった1500人が、通行人らに歯科医療の改善を訴え、259筆の署名が集まった。協会の戸井逸美氏(生野区)が、国保料を払えず保険で医療を受けることすら出来ない人が増えていることなどを指摘し、「お金のあるなしで受けられる医療に格差があるのではないか」と訴えた。

参加者の声

署名用紙が溢れるほどのダンボールが積み上げられ、国民の関心の高さに驚きました。私たちは治療するだけではなく、医療制度・保険制度をしっかりと認識していかなくてはならないと、再確認することができました。この集会の熱意が国に通じて、未来に歯科医療が明るいものになるよう願いたいと思います。

(歯科医師・華山りえ)

集会に寄せられた署名の山の中に、私の診療所の1000筆の思いも見ました。小池晃参議院議員はじめ、川田龍平議員(無所属)も出席があり、国民の歯科医療にもっと知恵を出し、行動していく必要性を感じました。

(歯科医師・戸井逸美)

5議員と面談

「保険でよい歯科医療」と 自主共済署名託す

国会要請

協会は、診療報酬引き上げや患者負担軽減、自主共済の保険業法適用除外、10・28集会」と「11



石井議員(衆・共)に要請する矢部氏＝10月18日、議員会館内

・17近畿総決起集会」への賛同を求めて10月18日、国会要請を行った。

伊津進弘理事長、下井戸昭介・永田悦夫各副理事長、矢部あづさ・早田寿夫各理事、小山栄三理事・相談役らが、大阪選出の衆参議員へ要請し5人の議員と面談した。午後からは、日比谷野外音楽堂で開かれた「医師・看護師ふやせ!ストップ医療崩壊!10・18中央集会」に参加した。

10月度生涯研 臨床矯正の基礎から実践まで

セファロトレースによる評価法を実習



実習を交えて臨床矯正について話す濱田氏＝10月21日、M&Dホール

生涯研修講座を10月21日、M&Dホールで開いた。歯科医師ら85人が参加した。

参加者はまず、濱田氏が準備した資料の多さに驚かされた。講演は学生時代の矯正の授業を思い出させる内容で、臨床矯正に必要な基礎知識、診断と治療の進め方などが解説された。その後、最も患者さんから要望の多い、混合歯列期の簡単な矯正治療に対して用いられる矯正装置の解説へと

続き、舌側弧線装置・床矯正装置を自分で作る場合に気をつけるべきポイントにも触れられた。ワイヤーを歯や粘膜から何ミリ離すかの勘所は、MTMをされている先生にとって参考になったと思う。

講演の後半には、濱田氏が実際に治療をされた症例を用いてセファロトレースの実習が行われ、術前と術後の2枚のトレースを重ね合わせることで、どのように歯

が移動したのかを評価する方法まで実習した。濱田氏は「評価ができてこそ矯正が理解できる」と強調された。

基礎的なものから高度なものまで3時間に及ぶ内容で、濱田氏の都合が許すのであれば、3回から5回に分けて、各項目のエッセンスをもっとたくさん聞いてみたいと思わせるような充実した講演であった。

(港区・富本昌之)

「10・18中央集会」には、全国から5100人が参加した。医師・看護師を増やすこと、患者負担軽減、国の医療費予算増額の3つの要求を掲げて、世論づくりと運動発展のために、保団連・民医連・中央社保協・日本医労連など11団体が開いた。

署名へのご協力をお願い

協会では診療報酬のプラス改定と患者の窓口負担軽減の実現を目指し、署名に取り組んでいます。ぜひご協力をお願い致します。

「診療報酬引き上げ 患者負担軽減」を求める要請書(会員署名)

今号に折り込んでいる署名用紙をFAXで協会までお送り下さい 6568-0564

歯界

長期にわたる政府の低医療費政策によって、日本中の医療機関が壊滅の危機に瀕している。

産科・小児科だけの問題ではなく、マイナーな科として患者からも軽視される歯科を筆頭に全科軒並みである。

公立も私立も、大病院も個人開業医も、都心部も田舎も、いずも低単価と過重経費負担を押し付けられて経営難に苦しんでいる。

経営のエキスパートの発想は、儲かる部門への転身と現場医療従事者への過酷な労働強化である。その結果、勤務医も開業医も慢性的過労状態にある。収入は激減しながら体力も精神力もだんだん枯渇しつつある。自分で「聖職」とやせ我慢しても、世間や身内は、無能だから医者をしていられると思っているのではないかと勘ぐってしまつ。

未来を担う若い医者は臨床より基礎部門に憧れる。歯科医をサポートする技工士や歯科衛生士の入学者減と離職者の増加も逆風で、明るい兆しがどこにも見えない。